

みよし市災害廃棄物処理計画策定について

【計画策定の目的】

近年頻発する自然災害等を受け、国の第4次循環型社会推進計画では2025年度の市町村における災害廃棄物処理計画の策定率60%を目標としています。

本市においても、近年の大規模災害発生リスクの高まりを踏まえ、膨大な量が発生すると見込まれる災害廃棄物を迅速かつ円滑に処理することにより、生活環境の悪化を防止するとともに速やかな復旧復興に資するため、「みよし市災害廃棄物処理計画」を策定します（図1）。

「災害廃棄物処理計画」は災害発生に備えて平時から取り組んでおくべき事項をあらかじめ整理し、本市の災害対応力の向上に努めることを目的に策定します。

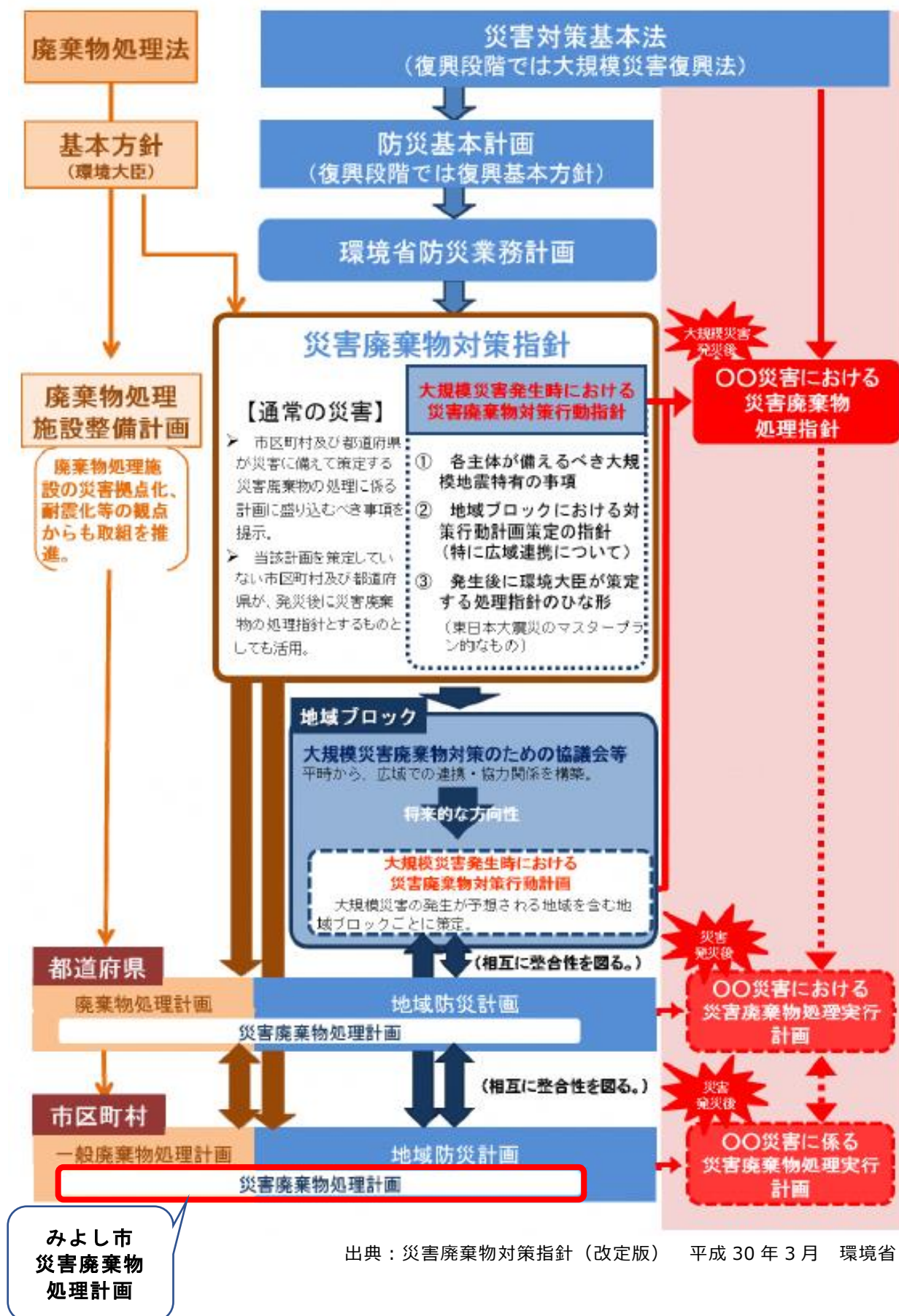


図1 災害廃棄物処理に係る防災体制に関する各種法令・計画の位置付け

【実施期間】

令和 2 年度と令和 3 年度の 2 か年で実施します。

【実施内容】

1. 地域特性の整理と把握

地勢、人口動態、産業構造、土地利用の状況、開発計画等の将来計画などを、主に既存資料を整理することで地域特性を把握します。

2. 「みよし市災害廃棄物処理計画」(案)作成のための基礎調査

①大規模災害の想定及び災害廃棄物発生量の予測

「みよし市地域防災計画」や「愛知県災害廃棄物処理計画」を基にした被害想定から災害廃棄物発生量を予測します。

災害廃棄物発生量の推計は、発生原単位^{※1}（過去の災害から設定）に損壊家屋等の被害棟数を乗じることで算定^{※2}できます。

また、災害廃棄物発生量に加え、生活ごみ・避難所ごみの発生量、避難所におけるし尿の発生量等を推計します。

※ 1：過去の災害から設定した被害家屋 1 棟あたりの災害廃棄物発生トン数

〔参考〕災害廃棄物の発生量の推計に用いる標準的な発生原単位例

被害	発生原単位	原単位の設定に用いられたデータ
全壊	117 トン/棟	・ 東日本大震災における岩手県及び宮城県の損壊家屋棟数（消防庁被害報） ・ 東日本大震災における岩手県及び宮城県の災害廃棄物処理量 岩手県：「災害廃棄物処理詳細計画（第二次改定版）」（岩手県、2013.5） 宮城県：「災害廃棄物処理実行計画（最終版）」（宮城県、2013.4）
半壊	23 トン/棟	・ 同上（半壊の発生原単位は「全壊の 20%」に設定）
床上 浸水	4.6 トン/棟	・ 既往研究成果をもとに設定 「水害時における行政の初動対応からみた災害廃棄物発生量の推定手法に関する研究」（平山・河田、2005）
床下 浸水	0.62 トン/棟	・ 同上

出典：環境省 災害廃棄物対策指針 技術資料・参考資料

※ 2：災害廃棄物発生量の推計式例

$$Y = X_1 \times a + X_2 \times b + X_3 \times c + X_4 \times d$$

Y：災害廃棄物の発生量（トン）

X₁, X₂, X₃, X₄：損壊家屋等の棟数

1：全壊、2：半壊、3：床上浸水、4：床下浸水

a, b, c, d：発生原単位（トン/棟）

a：全壊、b：半壊、c：床上浸水、d：床下浸水

出典：環境省 災害廃棄物対策指針 技術資料・参考資料

②既存処理施設の能力推計

既存施設の処理可能量、年間処理量実績等から既存施設の処理能力を試算します。

③処理戦略の検討

①で推計した災害廃棄物発生量、②で試算した既存施設の処理能力等から、災害廃棄物の処理スケジュールや処理フロー（収集運搬、処理・処分、リサイクル）を想定します。

3. 「みよし市災害廃棄物処理計画」（案）作成

①平時の備えに関する事項

②応急対応に関する事項

③復旧・復興等に関する事項

関連法令、上位計画、「災害廃棄物対策指針（改定版）」等を踏まえ、「みよし市災害廃棄物処理計画」（案）を策定します。

4. パブリックコメント実施

パブリックコメントを実施し、計画に反映すべく広く市民の方々からご意見を聴取します。

頂いたご意見は整理・分析し、ホームページ等で公開します。

【工程】

計画の策定は別紙に示す工程表を基本として実施します。